




離散型確率変数の確率分布

ref: スッキリわかる確
率統計 p77~79

 **確率関数** 離散型確率変数 X が定数 x_i という値を取る確率を次のようにおく

$$P(X = x_i) = p_i$$

ただし、各確率 p_i は 0 以上の値であり、その総和は 1 であるとする

$$\sum_i p_i = 1, \quad p_i \geq 0$$

このとき、 $P(X = x_i) = p_i$ は x_i の関数なので、それぞれの値に対する確率を関数 $f(x)$ を用いて、次のように表すことができる


$$f(x_i) = P(X = x_i)$$

この関数 $f(x)$ を X の**確率関数**といい、 x_i と p_i との対応 $f(x_i) = p_i$ を X の**確率分布**という



連続型確率変数の確率分布

ref: スッキリわかる確
率統計 p79~81

 **確率密度関数** 連続型確率変数 X に対して、次の条件を満たす関数 $f(x)$ の存在を仮定する



[Todo 1:]

.....

Zebra Notes

Type	Number
todo	1